

伝説と歴史の舞台を歩く

比叡山(2)

大津市
DATA

- 歩行距離 約 11 km
- 歩行時間 約 4 時間



「一文字狸」の逸話が残る西塔の法華堂(右)と常行堂(左)。弁慶が渡り廊下に肩を入れて天秤棒のように担い上げたことから「ない堂」と呼ばれている。

「比叡山の七不思議」の残りの3つのスポットは、西塔、横川のエリアにある。東塔をあとにして東海自然歩道のコースに入り、山王院から淨土院を経て西塔へ向かった。

西塔には渡り廊下でつながる法華堂と常行堂がある。ここに狸の像ばかりを彫っている僧がいた。ある夜、眉毛が一文字の巨大な狸が現れ「仏道修行のために千体の狸を彫りなさい」と告げた。その後、僧は千日回峰行をはじめ、毎日一体ずつ彫り続け、満願のときに千体の狸ができあがったという。

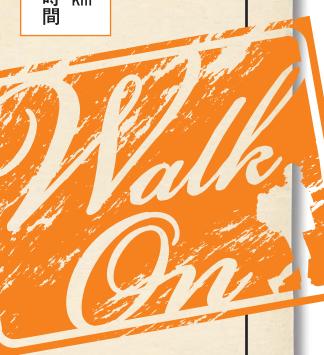
また、西塔に赤池と呼ばれる池があり、そこに棲む大蛇が修行僧や里人を苦しめていた。その前に高僧が現れると、大蛇は釈迦堂を取り巻

くほどの大蛇に変身、「それならば小さく変身できるのか」と僧が挑発すると、僧の手のひらに乗るぐらい小さくなり、僧はすかさず壺に封じ込めて退治した。この池は横川にある龍ヶ池ともいわれている。

行者が歩いた峯道を通つて横川になると、前述の龍ヶ池

があり、目の前に舞台造りの横川中堂がそびえている。あるお盆の夜、このお堂の前の広場で、觀音様と六道(地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天人)の亡者たちが集まり、盆供養の踊りを繰り広げたとか。

比叡山には、七不思議の他にもユニークな逸話がまだあるようだ。



横川にある龍ヶ池の解説によれば、高僧は良源(元三大師)で、法力で大蛇を池に封じ、弁財天を祀ったという。改心した大蛇は弁財天の使いとして龍神となつた。元三大師は「厄除け」の信仰が篤く、おみくじの元祖としても知られている。



龍ヶ池の弁財天(横川)



“Walk on”とは

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。